

東京大、28年度入試から 「推薦入試」を導入！

「後期試験」に替え、「出願書類・面接等・センター試験」で
100名程度を科類別に選考！

旺文社 教育情報センター 25年3月15日

東京大は25年3月15日、現行の「後期試験」に替えて、センター試験を課す「推薦入試」を、新課程入試が全面実施される28年度から導入することを発表した。

東京大では23年夏、「入試企画室」を設け、濱田純一総長の下で策定された『東京大学の行動シナリオ FOREST 2015』を踏まえ、“タフな東大生”育成の一環として、多様で優秀な学生受入れを目指す入試改革を検討してきた。今回の入試改革では、選抜方法や評価尺度を多元化し、高等学校等での学習成果を適切に評価する観点から、基本となる「前期試験」を維持しつつ、「後期試験」の後継として「推薦入試」の導入に踏み切った。

以下に、発表された「推薦入試」の基本的な枠組みを紹介する。なお、詳細な出願要件や選考方法等については、25年度中に決定次第、公表するとしている。

<「推薦入試」の基本的な枠組み>

1. 募集人員

100名程度：理科3類も含めた各科類ごとの設定を予定。

2. 出願資格・時期

(1) 出願資格

高等学校等を卒業若しくは卒業見込みであり、特定の学問分野に対する強い関心、これを東京大で学ぶ積極的な意欲を持ち、学校長が責任をもって推薦できる者（各学校長が推薦できる人数は、1～2名の予定）

(2) 出願時期

入学前年の“11月1日以降”に「入学願書」を受け付ける。

* 「後期試験」の募集人員はゼロとするものの、「個別試験」（「分離分割方式」）や「推薦入試」に関する実施要領は文科省及び国大協のガイドラインに則って行われる（前期試験や推薦入試合格者の扱い、日程等）。

書類選考の後、「面接等」は12月頃に行われ（内定）、1月中旬のセンター試験を経て、2月上旬頃の合格発表がイメージされる。

- * 「推薦入試」不合格の場合、1月下旬～2月初旬の「個別試験」への“2次出願”をしておけば、東京大の「前期試験」及び他の国公立大「後期試験」の受験は可能だ。

3. 選抜方法

東京大の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えていることを前提に、志望分野への適性を重視しつつ、高等学校段階の学習成果や卓越した能力を積極的に評価。

- ① 「出願書類」、「面接等」の審査結果及び「センター試験」の成績によって総合的に評価し、合格者を決定。
- ② 志願者数が募集人員を大幅に上回る場合には、「出願書類」により“第1段階選抜”を実施。
 - * 「出願書類」としては、「調査書」のほか、推薦の根拠となる各種の“エビデンス”や課題論文などが想定される。
 - * センター試験は、素点ではなく、評価尺度の基準点としての利用がイメージされる。
 - * 「面接等」には、関係学部の教員などによる“時間をかけた丁寧な面接”（口頭試問的？）などが考えられる。

4. 入学後の対応

志望分野に対する関心や学ぶ意欲に応えるよう、入学後の履修方法や学部・学科等の進路選択に配慮。

- * 東京大の基本理念である「リベラル・アーツ」と「レイト・スペシャリゼーション」を堅持しつつ、後期課程の専門基礎教育や大学院との繋がり、連携強化の方向性が伺える。

5. 導入時期

平成28年度入試から導入予定。

- * 28年度入試は、新課程入試が全面実施される年度である(数学・理科については27年度入試から新課程対応)。
 - 現役生としては、25年度入学の新高1生が対象となる。
- * 「後期試験」の募集を取りやめるため、24年11月発表の「後期試験」の新課程対応の入試科目(センター試験と個別試験)は削除されることになる。
 - なお、「推薦入試」に課せられる新課程対応のセンター試験の利用教科・科目等については、改めて発表されることになろう。